

所在地:	福島県福島市太平寺字一本柳1番地		
設立:	1970年3月		
ISO14001取得:	1995年11月	ISO14001最新更新:	2010年8月
主要製品:	デジタルカメラ、オーディオ製品		
環境コミュニケーション:	10年度		
情報開示:	2件	工場見学:	220名
		地域貢献活動:	3件
問合せ:	生産技術チーム	TEL:	024-546-3333



ごあいさつ

福島工場は福島県北部に位置し、『四季折々の豊かな自然』と『都市の利便性・快適性』を併せ持つ恵まれた環境に立地しております。1970年にラジオの工場として産声をあげ、創業以来41年が経過致しました。2004年からはデジタルカメラの生産を開始し世界中のお客様にお届けしております。

環境取組みは、事業活動と福島県の豊かな自然との共存を図るため1992年より組織的活動をスタートさせ、今日まで継続してモノづくりにおける環境負荷軽減活動を推進しております。現在では、①省エネルギー活動によるCO2排出削減 ②ゼロエミッション活動 ③全員参加による環境市民活動を積極的に展開しております。また、地域と一体となった取組みを推進する視点から「ふくしまエコネット」や「福島リサイクル協議会」への加盟、「福島市民懇話会」を通じた各種地域貢献活動にて、地域とのネットワーク構築と活動の高位平準化を目指しております。今後も、パナソニック商品を提供する世界中のみならず、そして地域のみならず事業活動、環境貢献活動を通じ愛される福島工場を目指し努力を重ねてまいります。



環境責任者
安達 敏雄

2010年度の環境重点テーマの取組み

目標	成果
工場で使用エネルギーの削減によって、CO2の排出量を2,500トン以下にする。	半田付けリフロー炉のダクト断熱やプリント基板搬送方法変更等の改善により、電力量が削減出来て、CO2排出が2,359トンになりました。
事業活動の結果発生する排出物(有価物及び廃棄物)の排出改善を前年比3%以上行う。	製品用部品の包装形態、荷姿改善やダンボールの通い箱化および成形材料の内部リサイクル化によって7.4%の排出改善が出来ました。
パナソニックグループで定めた重点削減化学物質の削減を前年比2%以上を行う。	工場でも多く使用しているエタノールに対し、プリント基板の設計改善や品質改善によって6.3%の削減が出来ました。

製品・環境配慮ポイントの紹介



デジタルカメラ DMC-FX77

スリムレンズがつくりだす奥行き約20.6mmのスマートなボディ。フルハイビジョンムービーもタッチで撮れる3.5型液晶。広角24mmレンズを搭載し、1210万画素の高画質。当社2010年度の従来モデルDMC-FX70比本体質量を12%削減しました。



デジタルカメラ DMC-TZ20

旅先の写真もムービーもタッチで美しく残せる光学16倍ズーム。かんたん設定で、旅先の地名や現地時間を自動で残せるGPS搭載。当社2008年度の従来モデルDMC-TZ7比本体質量を4%削減しました。



デジタル一眼レフカメラ DMC-GF3

有効画素数1210万画素でデジタル一眼の高画質はそのままに、小ささ、軽さを追求しました。気軽に持ち歩いて、毎日を美しく残せるハイビジョンムービー一眼。当社2009年度の従来モデルDMC-GF1比本体質量を22%削減しました。



ポータブルワンセグテレビ SV-ME970

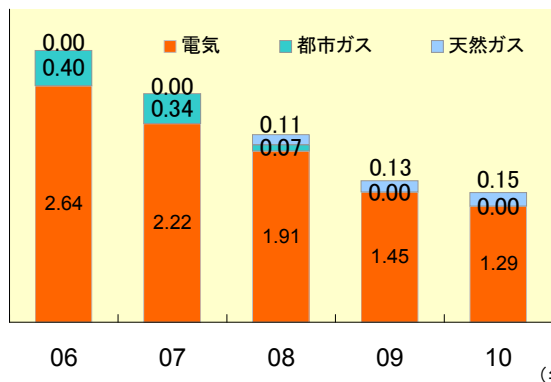
ワンセグ放送が受信でき、防水(IPX6/IPX7相当)対応。水しぶきを気にせず使え、お風呂でインターネットや電子書籍が楽しめます。感圧式タッチパネルを搭載し、濡れた手でもストレスなく操作ができます。

→製品情報: <http://panasonic.jp/products/digital.html>

環境パフォーマンスデータ グラフ表示年 2010年4月1日~2011年3月31日

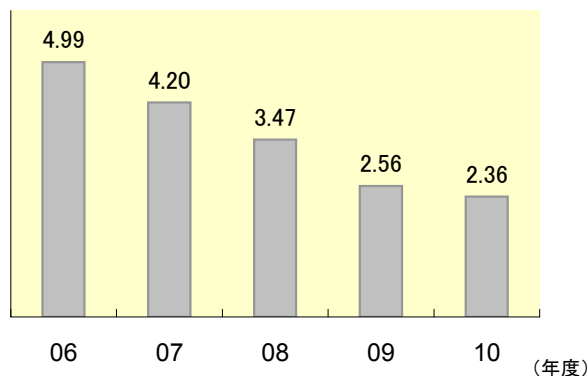
エネルギー使用量

単位: 千kl



CO2排出量

単位: 千t

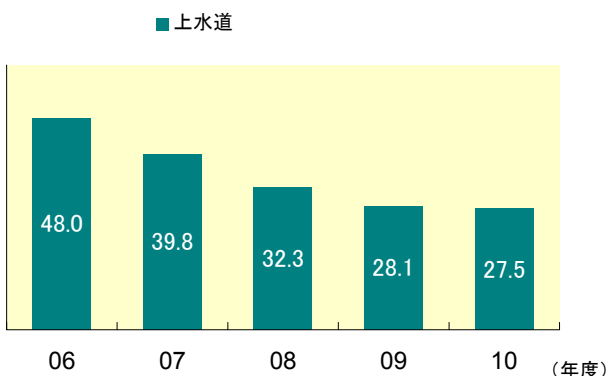


算出基準について

電機事業連合会「電気事業における環境行動計画」(2008年9月)に記載されている年度ごとの「使用端CO2排出原単位」を使用して計算。但し、2006年度以降は0.410kgCO2/kWhを固定して使用。

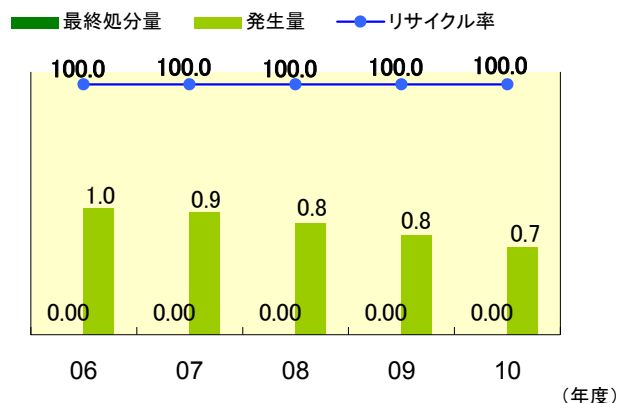
水の使用量

単位: 千m³



産業廃棄物・有価発生物

単位: 千t、%

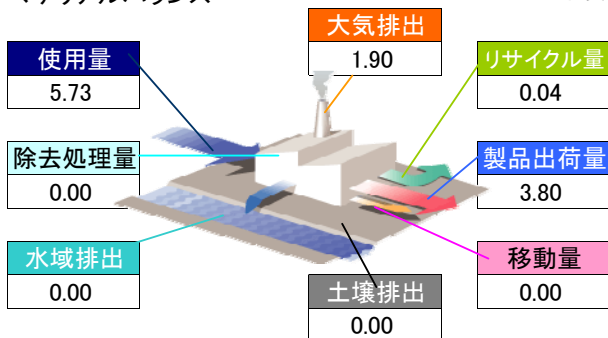


循環的使用量 0.00 m³ 雨水使用量 10年度 996.00 m³

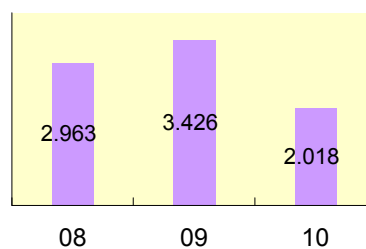
化学物質

単位: t

10年度 マテリアルバランス



重点削減物質 排出・移動量



環境パフォーマンスデータの特記事項
報告すべき事項はございません。

パナソニックグループの工場化学物質管理について

http://panasonic.co.jp/eco/factory/chemical_substance/

環境法令等の順法状況 10年度

<大気汚染物質計測状況>

項目	単位	施設名	法令規制値	自主規制値	実績平均値	実績最大値	計測頻度
SOx	Nm ³ /h	冷温水発生機NO1(使用無し)	6.60	3.00			2回/年
		冷温水発生機NO2	6.60	3.00	0.02	0.02	2回/年
		小型ボイラー(使用無し)		3.00			1回/年
NOx	ppm	冷温水発生機NO1(使用無し)	150.00	130.00			2回/年
		冷温水発生機NO2	150.00	130.00	33.00	34.00	2回/年
		小型ボイラー(使用無し)		130.00			1回/年
ばいじん	g/Nm ³	冷温水発生機NO1(使用無し)	0.10	0.05			1回/5年
		冷温水発生機NO2	0.10	0.05	0.01	0.01	1回/5年
		小型ボイラー(使用無し)		0.05			1回/5年

<水質汚濁物質計測状況>

項目	単位	施設名	法令規制値	自主規制値	実績平均値	実績最大値	計測頻度
COD	mg/l	N/A					
BOD	mg/l	合併処理槽	120.00	17.00	4.40	13.00	1回/月
		浄化槽	160.00	30.00	3.60	3.60	2回/年
窒素	mg/l	合併処理槽	120.00	54.00	27.00	27.00	1回/年
リン	mg/l	合併処理槽	16.00	7.00	3.60	3.60	1回/年

<騒音・振動>

項目	単位	計測場所	法令規制値	自主規制値	実績平均値	実績最大値	計測頻度
騒音	dB	昼 敷地境界	65.00	63.00	47.50	54.00	1回/3年
		夜 敷地境界	55.00	52.00	44.00	47.00	1回/3年
振動	dB	昼 敷地境界	65.00	50.00	37.25	40.00	1回/3年
		夜 敷地境界	60.00	45.00	32.75	36.00	1回/3年

法令規制値: 法または条例および協定の規制する値

N/A: 法令規制対象外の項目

法令規制値超過について

報告すべき事項はございません。

指導、指摘事項に対する改善状況

指導、指摘事項	改善対策
報告すべき事項はございません。	

環境方針

パナソニック(株) 福島工場環境宣言

福島工場は「地球にやさしく、資源は有限! THINK GROBAL ACT LOCAL」を環境スローガンに定め、デジタルスチルカメラを主要生産品目とした事業経営と地球環境の共存を基本として活動を致します。

商品開発への積極的提言による資源の有効利用、モノづくりに於けるCO2削減等、環境保護活動を積極的に推進します。そして、企業としての社会的責任を遂行すると共に、我々の地球がバランスのとれた健康体であり続けるために万全の配慮と不断の努力を行います。その為に以下の環境宣言を致します。

1. この環境宣言はパナソニック(株) AVCネットワークス社環境方針と環境国際規格であるISO14001に準拠したものであります。
2. 環境活動は、全従業員によって組織的に推進するため、環境教育と啓発活動を行い周知徹底を図ります。
3. 環境関連の法規制、及び受入れを決めたその他の要求事項を遵守すると共に、環境目的・目標を設定し、計画的な活動を行う。又、状況変化に応じこれを見直し、環境パフォーマンスの継続的改善と汚染防止を実践します。
4. 福島工場は、磐梯朝日国立公園に隣接し、近くを流れる阿武隈川には白鳥が飛来するなど、自然に恵まれた環境を鑑みて、地域のリーダー工場として信頼される活動を展開します。
5. 福島工場の事業活動、製品又はサービスに係る環境影響のうち、次の項目を重点的に取り組みます。
 - ①環境配慮製品の開発及び製造。
 - ・有害物質を含まない材料の採用
 - ・低電力回路技術の採用で消費電力の削減
 - ②電力の省エネルギー活動によるCO2排出削減。
 - ・設備アセスメント、モノづくり革新
 - ・2011年度CO2排出目標: 2,450トン以下
 - ③産業廃棄物のゼロエミッション達成継続と排出削減及びリサイクルの質的向上。
 - ・購入部材の包装合理化及び新規排出物のリサイクル化
 - ・前年度排出比3%以上改善(削減)
 - ・リサイクル率99.5%以上
 - ④化学物質の適正管理と負荷低減活動。
 - ・プリント基板合理化や、はんだ印刷用版の洗浄方法改善
 - ・前年度排出比2%以上改善(削減)
 - ⑤従業員の環境家計簿活用やノーカーデー推進による環境市民活動。
6. この環境宣言をパンフレット等を通じて公開致します。

平成 23年 7月 1日

パナソニック株式会社 AVCネットワークス社
コンシューマープロダクツ事業グループ 福島工場

工場長 勝 康彦



環境負荷削減の取り組み事例



自動ドアの二重扉化推進

工場棟の1階には、材料搬入口等の自動扉があります。夏季および冬季には、外気が一気に進入するために、空調の負荷が大きくなっておりました。この自動扉を二重にすることによって、外気の進入を少なくし、空調負荷を減らす事が出来、省エネルギーが図れました。同時に、作業環境の改善も図ることが出来ました。



天井型サーキュレーター設置

2011年夏は、電力不足によるピーク電力の削減が求められました。工場でも昨年夏のピーク電力から15%削減する取り組みを全部門で実施しました。特に空調の電力削減としては、職場の天井に、サーキュレーターを45台設置し、空調の効率を向上させました。又、空調の電気エネルギー使用からガス化の推進、更に事務所の窓には遮熱フィルムを貼るなどして、多くの電力削減に成功しております。

環境コミュニケーション事例



地域ぐるみの夏祭り

毎年夏には地域の皆さんを含めた夏祭りを行います。2011年は、「ガンバろう東北」を合言葉に、約1800名の方が参加して盛大に行われました。写真はヨサコイ踊りの様子です。



LUMIX杯・Panasonic杯の開催

青少年の育成を狙いとして、地域の小学生を対象にソフトボールやフットベースボール大会を開催しております。又、中学生を対象としたサッカー大会では過去に6人のJリーガーが誕生しました。尚、2011年3月の行事は、東日本大震災の為、中止をさせて頂きました。



工場周辺のクリーン活動

梅雨時期の前に、構内で業務をして頂いている共栄会社の皆さんと一緒に工場周辺の堀払いや草むしり、ゴミ拾いを行っております。



チビッツ見学会

毎年、地域の育成会を対象とした工場見学会を行ない、モノづくりや環境取組の紹介を行っております。尚、2011年3月の見学会は、東日本大震災の為、中止をさせて頂きました。

緊急事態への準備と対応

緊急事態に対する予防措置

工場の緊急事態のリスクとしては、エタノール等の溶剤および設備で使用しているマシンオイルの使用と保管があります。緊急事態の未然防止を基本に、予防の措置としては、設備の油用ホースの日常点検を行っております。又、万一の漏洩の備えとして、吸着マットや回収備品、土嚢等を常時準備し、定期的に点検をすると共に、漏洩時を想定して緊急訓練も定期的実施し、近隣へ影響が及ばないように考えて実施しております。



溶剤容器の転倒を想定した訓練

溶剤などの運搬は、一斗缶で行われる場合があります。その運搬途中での転倒を想定した訓練を実施しました。



重油使用の全廃

従来、発電機などの燃料として重油の使用がございましたが、継続した省エネルギーの結果、発電機の廃止が可能となり、重油の使用を全廃しました。この結果、重油の流出リスクが無くなりました。